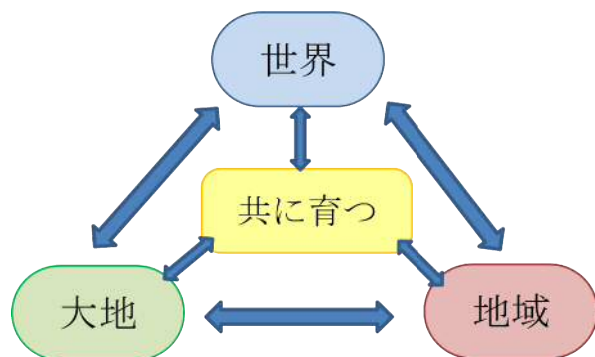


次期総合計画「にいがた未来ビジョン」について

1. 合併マニフェスト（H17）からつづく、まちづくりの方向性



- 世界と共に育つ日本海政令市
 - 大地と共に育つ田園型政令市
 - 地域と共に育つ分権型政令市
- (合併マニフェストより抜粋)

※合併マニフェスト

平成17年の広域合併に際して、目指す政令市の理念と、かつてない政令市を築くポイントを整理し、市民の皆様にお示しした新潟市の行政マニフェスト。

2. 次期総合計画で目指す3つの都市像

地域

『都市像Ⅰ 市民と地域が学び高め合う、安心協働都市』（地域・きずなを強力支援）
～地域力・地域の絆を育成支援し、市民や地域が主役となる都市～

- ・地域包括ケアシステム
- ・地域の茶の間のコミュニティハウス化
- ・男女共同参画、ワーク・ライフ・バランスの推進
- ・ひまわりクラブを地域で運営するなど子ども子育て支援充実
- ・学校が地域に開かれ、地域から信頼される仕組みづくり
- ・まちづくりセンターなど地域の複合施設と公共交通連動

大地

『都市像Ⅱ 田園と都市が織りなす、環境健康都市』（田園資源の徹底活用）
～田園・大地の持つ力・資源を最大限に引き出し、有効活用する都市～

- ・農業特区を活用し6次産業化などニューフードバレーを実現
- ・籾殻ペレット本格導入など再生可能エネルギーを利用するなど田園資源の徹底活用
- ・泥んこ遊び、菌ちゃん野菜づくりなど大地・農業の子育て活用
- ・教育ファームの本格的実施
- ・農業を活用した障がい者、引きこもりの方などの社会参画 欧州ケアファームをイメージ
- ・田園・大地の持つ可能性を最大限活かし6次産業に医療、福祉、子育て、教育を加え10次産業へ、医食農同源実現

世界

『都市像Ⅲ 日本海拠点の活力を世界とつなぐ、創造交流都市』（平和・交流の率先創造）
～環日本海に位置する開港都市として、アジア・ユーラシアの平和への貢献と、国際交流を創造・実践する都市～

- ・平和・交流都市ネットワークの構築
- ・農産物輸出基地と国際観光ルートの要に
- ・ユネスコ食文化創造都市を最大限アピール 農業特区と相乗効果期待
- ・踊り・光・水辺の演出でクリエイティブシティのシンボル化 東アジア文化都市
- ・観光地づくりから関係地づくりへ 日常観光・田園資源観光

3. 都市像を実現するために

○コンパクトなまちづくり 多核連携型都市 田園と市街地が調和する新潟らしいまちづくり

○市民に信頼される開かれた市政の実現

- ・市政情報の積極的公開、定員適正化 行政改革を通じた経営品質の向上

○持続可能な財政運営

- ・8年後を見通した財政見通し → 税収見通しの若干の改善の兆し
- ・復興需要などによる労務単価、資材単価の高騰傾向 → H24比1.2倍
(事業例：新潟駅周辺整備事業影響額 約100億円増)
- ・プライマリーバランスへの配慮、ファシリティマネジメントの推進